2025-26 シーズンラインナップに寄せて

2025 年度のテーマは「王道！斬新！」とし、傑作と知られざる名曲を組み合わせた多彩なプログラムを練りました。

私自身は、6 月定期では生誕 150 年を迎えるラヴェル作曲の組曲「マ・メール・ロワ」と、日本初演となるジョルジュ・レンツの美しい「ヴァイオリン協奏曲」を中心としたフランス・プログラムを、そして 9 月定期では日本ではまだほとんど知られていないであろう 19 世紀に活躍したフランスの女性作曲家、ルイーズ・ファランクの「交響曲第 3 番」と、京響が得意とするダイナミズム溢れる名曲、リムスキー・コルサコフの「シェエラザード」を指揮します。

さらにシーズンを締めくくる 3 月定期では、これぞ王道と言えるモーツァルトとダ・ポンテによるオペラの金字塔「コジ・ファン・トゥッテ」を、最高のキャストでお届けします。私の音楽人生の中心を貫くモーツァルトのオペラを、より音楽に集中することができる演奏会形式で取り組めることは、この上なく幸せです。

古典に定評のある首席客演指揮者のデ・フリーント氏は、モーツァルトやシューベルトはもちろんですが、ブルックナーでどんなアプローチをされるのかとても楽しみです。また、これまで京響のサウンドを深化させてきた広上淳一、高関健、ジョン・アクセルロッド各氏にそれぞれの得意分野で腕を振るっていただくのをはじめ、世界的に活躍する個性豊かな指揮者陣にご登場いただきます。

©Felix Broede

ソリストも、ベルリン・フィル・デビューが決まっているヴァイオリニストの HIMARI さんや世界を魅了するソプラノ歌手の森麻季さんをはじめ、日本国内外から優れた音楽家をお招きします。

毎年ご好評をいただいている、オーケストラ・ディスカバリー・シリーズや、ZERO 歳からのみんなコンサート等、若い人向けの公演にも積極的に取り組んでいきます。皆さまと、ホールでお目に掛かれますのを楽しみにしています。

京都市交響楽団　第 14 代常任指揮者

沖澤のどか